


行政視察報告書

平成27年 8月 21日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員樋之津 倫子 

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 県

住 所	長崎市
視察案件	原水爆禁止世界大会
期 日	平成27年 8月 7日(金) 15時30分 から 8月 9日(日) 13時 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	会場 7日開会集会、9日閉会集会 とともに長崎市体育館 8日分科会 長崎県総合福祉センター
概 要	核兵器のない、平和で公正な世界を築くため、この一年間の国内外の取り組みを検証し、交流することでこれからの一年間どう頑張るか、考えることが大切です。今年は特に被ばく70周年を迎えており、この年を核兵器廃絶の転機にしようと、参加者の熱意と願いが集約されています。 被爆者の高齢化に伴い、被爆の非人道性に満ちた実相を語り伝えるという課題を、どう克服するかということも大切な柱に位置付けられていて、それに応じた取り組みが発表されたことは大きな未来への希望とも言えました。

(個人行政視察用)

添付書類	視察資料 (参加資料) 視察状況写真 (開会式・分科会・閉会式・ 開会式ビデオー①歌交流②谷口氏被ばく証言③平和の歌 アベマリアーベネズエラオペラ歌手ー別添ディスク)
------	---

感想

日本国憲法の遵守と平和国家の希求は私の政治活動の中心をなすものです。その意味で、毎年平和活動に参加し、国内外の情勢学習と地域での取り組みの交流を大切にしてきました。

特に被爆70周年の今年は、NYでのNPT会議への働きかけ行動参加などもあり、特別な思いをもって取り組みました。

広島・長崎と、毎年二か所で行われる世界平和大会ですが、今年は長崎が本会議で主流をなしており、参加の意義も深いと感じていました。

20か国150人を超える海外代表も参加の大会は、実に国際色豊かで、多様な考え方がありますが、核兵器廃絶という一点で運動を進めることを確認しました。

7日、大会の開会式で、主催者挨拶や参加国代表の挨拶、歌声交流などありました。大会会場を提供していただいた長崎市長は、ようこそ長崎へという歓迎の言葉の後、「被ばく70年の節目であると同時に、5年ごとに行われるNPT再検討会議の行われる年でした。この5年間、NPT再検討会議の準備会に、毎年広島・長崎から参加して声を聞いていただいた。それは、核兵器廃絶の議論が、原子雲の上から見た議論とならないよう、原子雲のしたで、何があったのかを忘れないようにしてほしいためである。

この間、核兵器の非人道性をめぐる国際会議が開かれた。年々世界の大きな流れになってきた中、NPT再検討会議では最終文書の採択ができなかったのは残念だ。しかし決して無駄ではなく、最終文書の中には、これからにつながる様々な要素があり、それをもとにまた核兵器廃絶の大きな流れを作っていこう」という呼びかけをされました。

また、何といっても谷口さんの被ばく証言と廃絶の願いを込めた訴えにはすべての人の心を震わせるものがありました。

谷口すみてるさん86歳。「当時16歳で、郵便配達をしていました。爆心地から1.6キロメートル、住吉橋を走っている時、突然背後から強烈な光を浴び、強風に吹き飛ばされ、道路にたたきつけられました。（ここで映し出された写真は、原爆写真展でよく見慣れた、背中を全面やけどしてうつ伏せになっている少年。この人が目の前の人なんだ。よく生きてこられたと、感動をもってお話に聞き入りました。）1年9か月間、背中全面のやけど治療のため、うつ伏せのままの生活が続き、手は床ずれで骨が見え、食べ物がのどを通らず、やせ細った体は、胸から肺の動きが透けて見えるほどだった。12年間こうした被爆者を政府は放置したままでした。ビキニ環礁の水爆実験で再び日本が被ばくする中、日本で起きた原水爆禁止運動と、被爆者援護活動を通じて救われた。今は運動の発展で、核廃絶は世界の圧倒的多数の声になっている。

大村海軍病院で治療してくれた主治医の松本すなお先生に会った。うつ伏せで治療を受けていたからお互い顔を知らなかったが、先生は『あなたの背中が忘れられない。よく生きていてくれた。』と言われた。（この言葉に核兵器の非人道性を訴える被爆者の声が重なって、涙を禁じえませんでした。）私も、命のある限り、原爆被害の実装を世界に語り続けます。」と結んだ谷口さんに、

会場から大きな拍手が送られました。

8日は終日分科会です。私は、「原発と核兵器」の分科会に参加しました。会場は、長崎県総合福祉センター（長崎市茂里町3-4）大会議室で行われました。午前中、原子力研究の権威・物理学者である安齋郁郎教授から講話があり、原子力の恐ろしさ、その正体について講話があり、会場からの質疑も盛んに行われました。午後からは、各地からの発言、会場からの発言がありました。

特に福島の被ばく実態には心痛めるものがあります。その中でも、子供の被爆が当然あるはずなのに、その実態が科学的に解明されていない点など、未来ある子供たちに不安を与え、放置されているのには会場の誰もが政府の対応に不十分さを感じさせるものでした。

また、再稼働ゼロで1年11か月となります。日本は原発なしでやっていけることが証明できたにもかかわらず、再稼働の方向と、廃止を願う国民の多数の声を無視する政府の姿勢は納得できません。原発からの脱却で、自然エネルギーへの転換をこそ求めるべきと感じました。

写真1 7日 開会式議長団

写真2 海外代表紹介

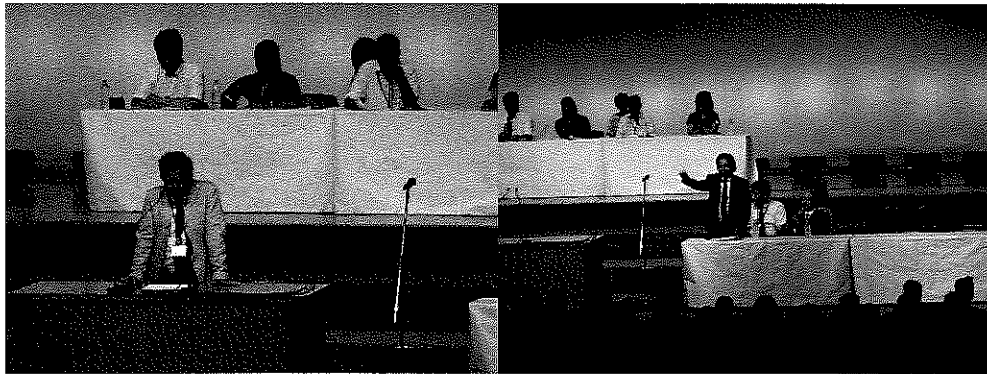


写真3 平和更新者登壇

写真4 平和の歌声 アベマリア



8日 写真5 分科会安齋講話

写真6 各地からの報告



写真7 会場の市民体育館前で NPT 参加者の 2 名と



体育館前オブジェ
をバックに



会場所狭しと垂れかけた全国自治体のペナント
笠岡市のもこの中に！



アメリカでお世話になったガーソン氏と再会（9日 閉会集会で）